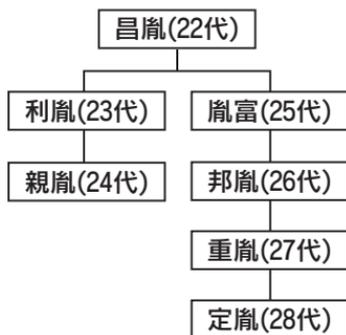


暗殺された千葉氏当主

千葉氏略系図
（『千葉大系図』縮木本）



久保地区には、かつて最勝院（別名親胤寺、現在は廃寺）と呼ばれた久保神社ゆかりの寺があり、そこに若武者の掛け軸一幅が納められていました。

描かれたのは千葉氏24代当主の親胤、これを描き「久坊（久保）の親胤寺」に奉納したのは、江戸時代初期に一介の浪人身分でありながらも千葉氏の当主となった定胤という人物です。

掛け軸には「（右）千葉介定胤／大徳寺門下／南岸居士（花押）／（中央）千葉新介／親胤御影／往生十七歳／縁日／天正七己卯年五月四日（左）親胤寺／久坊授之」と記されています。

千葉親胤は、父利胤が天文16年（1547）33歳で亡くなったため、7歳で家督を相続し千葉介となります。

幼少期は後北条氏寄りであった家臣の原胤清らに実権を掌握されていましたが、成長するとこの体制に不満を抱き、後北条氏と対立する立場を鮮明にします。そのことで北条氏康の侵攻を受けて幽閉されます。

勇気胆力に優れると評され、一方では悪逆無道な人物といわれた親胤は、弘治3年（1557）8月、17歳という若さで家臣によって暗殺され、短い生涯を閉じます。

この後、千葉宗家の家督を継いだのは親胤の叔父で森山城（岡飯田・下飯田区）を居城としていた海上胤富です。

胤富は、後北条氏との関係を深め、上杉謙信、結城氏や里見氏などの侵攻を撃退したことから千葉常胤以来の千葉宗家の誇りを守った勇将と讃

えられた人物です。そして定胤は胤富の曾孫にあたります。また、不思議なことに縁日とした天正7年（1579）5月4日は、千葉親胤ではなく千葉胤富の命日です。

親胤暗殺の首謀者については、さまざまな憶説がありますが、親胤の怨念が悪霊となつて種々の祟りがあつたことが『千葉実録』に見えます。

そのため、千葉胤富と、その子孫である近世の千葉氏当主が、非業の最期を遂げた千葉親胤の御霊を鎮めるために最勝院を建立し、御影を寄進したと推察されます。

この資料は、平成17年に香取市有形文化財に指定されています。

生涯学習課
問い合わせ